

平成30年度 長崎総合科学大学附属高等学校 学校評価自己評価表

評価者氏名 ( 田原 章吾 )

学校教育基本方針	日本国憲法および教育基本法 の精神にもとづいて、国家および社会のよりよき形成者として心理と平和を愛し、自主創造の精神にみちた人間性豊かな人物の育成をめざす。 個人の人格・個性を尊重し、文化的・体育的な自発学習と創造活動を促し、調和のとれた心身の発達に心がける。また、労働を尊び責任を重んじ、科学と技術を国民の幸福と人類の平和のために役立てることを願う、誠実にして実践力のある人間を育てる。
学校教育目標	学園を厳正な学問と人間形成の場とするとともに、人間尊重の理念にもとづいて、自主的かつ積極的に相互の信頼と理解を深め、集団生活の規律を確立させる。 解る授業の展開はもちろん、あらゆる場を教育の現場と考え、学力の向上を推進し、併せて、徳性の涵養・自他との融合・礼節を尊ぶ、心身ともに健康な人間の育成に努める。
重点努力目標	便利で豊かな現代社会は、生徒たちの人間形成に微妙な影を落とし、意欲・関心において、多様な生徒が入学してくるようになった。教師自らが新しい時代の教育のあり方を研鑽し、率先垂範を心がけるとともに、生徒に対し、自ら学び、自ら考え、自ら行動する人格を育成する。清潔で非行なき学園をめざし、高大連携・進路指導・体験学習を通し目的意識の確立を図り、生徒・保護者・地域の信頼を得るとともに、「明るく 元気に さわやかに」をモットーに「生徒が輝く学校」創りに邁進する。

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		総括	成果と課題
				前期	年度末		
<b>1 学校経営</b> 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価							
① 学校教育目標の具現化	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る	建学の精神、中長期的なビジョンを踏まえた目標を設定する	4	4	4	「明るく 元気に さわやかに」をモットーに「生徒が輝く学校創り」を目標とし、その実現のため、全教職員が学力向上及び部活動の活性化と、進路指導の充実を重点に、「それぞれが自覚を持ち、共通理解」のもと目標達成のため取り組んだ。
			前年度の教育課題や生徒の実態を踏まえた適切な重点目標を設定する	4	4		
			校務分掌及び学年の経営方針のもと学校の教育目標を具現化する方策を盛り込んで実践する	4	4		
			目標達成の度合いを年度途中で評価・確認する機会を設け、その後の教育活動に活かす	4	4		
② 学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う	自校の教育課題を明確にし中期的な学校ビジョンを検討する	4	4	3.8	各学年、各コース毎に授業充実、学力向上に努めた。また、学び直しや各種検定試験等、計画的に実施した。 さらに、様々な学校行事やホームページ等で保護者や地域に情報発信をおこなった。
			各教職員が経営方針を意識して教育活動を展開する	4	4		
			教育目標や経営方針等を生徒・保護者・地域等に説明したり、広報したりすることに努める	3.5	3.5		
③ 学年経営	学年目標の具現化	学校目標に沿った学年目標による経営を行う	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する	3.1	3	3.1	学年会等で情報交換を行い、学年目標に沿った指導を行った。
④ 学級経営	学級目標の具現化	目標に沿った温かい学級づくりを行う	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う	3.1	3	3.1	各クラスの実態に応じた学級目標を設定し、生徒に理解させ経営を行った。
<b>2 教育活動</b> 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価							
① 教育課程の編成	創意工夫を生かした適切な教育課程の実施	学習指導要領の主旨が生かされた特色ある教育課程を編成する	多様な生徒の能力・興味・関心・進路に応じた特色ある教育課程を編成する	3	3.5	3.3	大幅な改訂前の教育課程となるが、今後の学習指導要領を見据えた、授業の展開が必要となる。自ら考えさせる授業を通して、生きる力に繋がるよう努めていく必要がある。

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		総括	成果と課題
				前期	年度末		
② 教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	創意工夫がなされた学習指導を行う	生徒の自主的・積極的な学習意欲を喚起するため、導入、発展に工夫した授業を行う	3.1	3.1	3.2	学び直しの取り組みや、基礎学力定着の徹底を図った。また、アクティブラーニング等生徒同士で教え合うことで、学習内容の理解を深めることが出来ている。授業へ取り組む姿勢が改善されている。 今後は教科内及び、教科間での取り組みの工夫やその効果等の情報交換を行い、より学力向上に努めたい。錬成クラスでは、入試問題等に取り組ませている。 新大学入試に向けた取組を、推し進めたり、ICT教育について効果的な方法を考える必要がある。
			学級の状況などの生徒の実態に応じた指導方法や指導形態を試みるなど、授業の創意・工夫に努める	3.3	3.3		
	教材の精選及び教具の活用	生徒の実態に応じて教材の精選や工夫、教具の活用を行う	生徒の実態に応じて、教材を精選したり、教育機器等を用いたりして、指導を工夫する	3.3	3.3		
			使用する教材や教具について、担当教師間の情報交換の場を設け、効果的な授業のため研究・研修を行う	3.1	3.1		
	適切な学習評価	教職員の共通理解のもとに適切な評価を行う	年度当初に担当教師間で評価基準を話し合い、共通理解のもとで評価を行う	3.2	3.2		
			生徒の多面的な能力を知識・理解に偏らず、授業に取り組む姿勢など総合的に判断した評価を行う	3.4	3.4		
		評価をその後の授業にフィードバックし、指導と評価の一体化を図る	2.9	3			
③ 総合的な学習の時間	ねらいが明確で創意工夫を生かした活動	学習指導要録のねらいをふまえて、地域や学校の特色を生かした活動を行う	各学年の年間計画に基づき学習活動を展開する。特に総科大との「高大連携」の実施・充実に努める	3.4	3.5	3.2	留学生との国際交流、高大連携授業、進路ガイダンスや職場体験等計画的に実施し、生徒も意欲的に取り組んだ。学年末には成果発表会を実施した。
			各学年の学習活動を通して、情報収集力や課題解決能力等を身に付けさせ、発表の機会を設ける	3	3		
④ 特別活動	ホームルーム活動の充実	学校・学年の教育目標に沿った年間計画により、活発な活動を行う	年間計画に基づいて、事前準備をよく行い、活発なホームルーム活動を実践するとともに基本的な生活習慣の確立、及び公衆道徳の育成を図る	3	3	3.2	各種行事に積極的に参加させた。 生徒会を中心に、生徒の自発的企画、運営で各種行事や生徒活動が、活発に行われている。
	生徒会活動の充実	自発的・自主的活動の推進を行う	生徒の自発性・自主性が発揮され、活発な生徒会活動を展開する	3.3	3.5		
	学校行事の充実	生徒の実態に即した効果的な行事	生徒の実態に即した見直しを行い、内容を工夫することにより効果的な行事を行う	3.3	3		
⑤ 生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒理解に基づき、全教職員でありさつ・マナー・礼儀等のきめ細かな生徒指導を行う	服装、容儀などについて生徒心得を中心に、教職員の共通認識のもと、生徒・保護者に説明したうえで、全職員で指導にあたる	3	3	3	挨拶をする生徒は多いが、生活面でのマナーの悪さや、仕事や責任を人任せにする姿勢が散見される。細かい部分から指導を行いたい。
			普段の学校生活において、個別面談などを通して基本的な生活習慣の確立に努める	3	3		
⑥ 進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う	生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう、ガイダンスや模試など各学年に応じた系統的指導に努める	4	4	4	各学年で学年に応じたガイダンス等を実施した。特に3学年は、生徒個人の進路実現にむけて取組み、早めに志望先が決定。卒業までに全員が進路を決定できた。
			進路実現に向け、進路情報の提供、講演会の実施、個人面談等を行う	4	4		
⑦ 教育相談	教育相談の充実	生徒の持つ悩みや困難の解決を援助する	カウンセリング・マインドを持って生徒に対応するように努める	4	4	3.3	生徒の話をよく聞くことに努めた。「指導」ではなく「寄り添う」ことを目標に続けていきたい。情報交換も出来るようになってきた。 大学別科の協力を得て、語学修得が未熟な生徒に対しては引き続き、指導をお願いすることができた。
			不登校・いじめ対策委員会を定期的に開催し、関係生徒の情報交換を行う	3	3		
	特別教育の充実	海外からの留学生に対し、特別な学習を行う	本大学別科の協力を得て、日本語習得の学習とともに、国語・英語・数学を中心とした特別指導を実施する。	3	3		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		総括	成果と課題
				前期	年度末		
⑧ 生徒会活動	生徒会活動の充実	自主的な生徒会活動を支援する	生徒会行事に生徒が主体的に参加できるような工夫と呼びかけを行う	4	4	3.5	各委員会が積極的に活動を始め、先生方の協力も増えてきた。
			生徒会の各種委員会活動を活発化するため、学期1回程度活動の評価を	3	3		
⑨ 読書教育	読書活動の充実	読書を通して、豊かな人格と落ち着いた生活態度を養う	図書だよりの発行に努めるとともに、図書委員を活用して図書館の利用や本の貸し出しの拡大を図り、年間読書冊数、平均7冊以上を目指す	3	3	3	廊下の掲示物や図書コーナーでの展示は、季節やできごとを取り入れて積極的に行っている。
⑩ 健康・安全教育	健康や安全に対する態度の育成	健康・安全な生活を送るための指導を行う	生徒の心身の健康について、保健主事・養護教諭・分掌・担任等の連携を密にした指導を行う	4	4	3.5	気になる生徒については、担任、学年、部活顧問と連携し、必要に応じてカウンセラーの先生の助言をもらいながら指導を行うことができた。例年、春に多かった伝染病の流行もなく良かった。今後も伝染病対策を徹底していきたい。
			安全確保について生徒や保護者への啓発を促し、組織的に対応できる危機管理体制を整えるとともに、本校危機管理マニュアルの周知を徹底する	3	4		
			全校集会、ホームルーム指導を通して、交通安全教育や安全衛生教育を徹底する	3	3		
⑪ 人権・同和教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関するさまざまな課題を認識させ、解決のための実践力を身につけさせる	体系的な人権・同和教育計画に基づき、全生徒に指導し、生徒が人権課題を解決しようとする態度を育成する	3.5	3.5	3.5	教職員は、輪番で研修会に参加し、意識を高めている。人権教育については、日々・日常が指導である。生徒指導・教科指導が人権教育として、お互いに人権の意識を高めていく。生徒に対して、年に1度の人権講話を実施している。
			教職員の認識の深化と、指導力の向上を図るため、校外研修に参加し、校内における職員研修を行う	3.5	3.5		
⑫ 部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う	部活動への参加率を前年度以上に引き上げるとともに、学習との両立ができるよう連絡・調整を行う	4	4	3.8	強化指定クラブを中心とした活発な活動に伴い、昨年以上に参加率が向上した。学習との両立を目指し、放課後の補習等を行い、定期テストへの取組を強化している
			部活動によって、生徒が達成感を持ち、好ましい人間関係づくりや個性の伸長を図るよう支援する	3.5	3.5		
⑬ ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア活動を通して、奉仕の心と郷土を愛する心を育成する	年間計画に基づき、年3回以上全校生徒が参加するボランティア活動を実施する	4	4	4	全校生徒による学期毎の地域清掃や、地域活動への生徒会や部活動による参加等、積極的に行った。
⑭ 資格取得	各種資格取得の奨励	個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。	漢字検定、英語検定等の合格率を上げ、何らかの資格を持つよう指導指導する	3	3	3	漢字検定・英語検定は、全校生徒に受検させている。漢字検定の合格率を上げることが今後の課題である。
3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価							
① 校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する	前年度の各分掌の課題を確認し、その課題解決のために業務の改善を図る	4	4	4	運営委員会、学年会、教科会、入試委員会等各種委員会を定期的に行い、それぞれの目標確認や課題解決のため、共通理解を図るよう努めた。また、その記録等の保存も行っている。
			学校全体の校務が円滑に推進できるよう、分掌や学年相互間の連携を図る	4	4		
			各校務分掌の活動について組織的・計画的に評価を行い、資料等の記録・保存にも努める	4	4		
② 各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運用	目的に沿って適切に委員会を設置し、運営する	各委員会の設置目的を確認し、必要に応じて新設、統合、廃止等の見直しを検討する	4	4	4	定期的または必要に応じて、各委員会で会議を行った。また、その内容を全体で共有出来るようにしている。
			各委員会での話し合いの結果を、教育活動や学校経営等に生かす	4	4		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価		総括	成果と課題
				前期	年度末		
③ 校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に授業研究等を行う	生徒の実態や自校の教育課題をふまえ、全職員による校内研修を学期に1回以上行う	3	4	3.2	年に1度、校内研修会を実施した。本校における問題点・今後改善する必要がある課題について、全職員で検討する機会とした。できる限り、多くの教職員の情報収集と学ぶ機会を設けた。
			授業見学等の機会を設け、教育実践の向上を図る	3	3		
			研修内容によっては研修受講者が、その内容を校内の教職員に知らせる機会を設ける	3	3		
④ 現職教育	教職員の資質向上への取り組み	私学教育研修会等の研修に積極的に参加する	私学教育研修会等の研修へ積極的に計画的に参加し、内容によっては報告会を開き、教職員の指導力等の向上を図る	4	4	4	各種研修会・講習会等に積極的に参加し、その内容伝達・報告の機会を設け、教職員の資質向上に努めた。
⑤ 学校活性化	目標設定自己評価制度の導入と充実	積極的に学校活性化に取り組むため、教師一人一人が学校運営に参加する	学校活性化に向け、各教職員が本年度の重点目標を設定し、その達成に向けた具体的方策を計画立案、実行に向け努力する。その成果について自己評価を行い、次年度に繋げる	3.5	3.5	3.5	自己目標を年度当初に設定し、中間評価を行い目標達成に努力した。
	総合的な学習への取り組みを活用する。	学習意欲の向上、及び視野の拡大に努める	大学の附属高校としての特色を活かし、高大連携事業を全学年に実施する。	4	4	4	3学年ともに年間計画通りに実施し、その取組む内容も充実していた。
4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価							
① 環境の整備	潤いのある生活環境の整備	日々の清掃を充実させ、美化意識を高める	全校生徒、全教職員で積極的に清掃活動に取り組む	2	3	2.5	廊下などの共有部分の清掃がなかなか行き届かない。今年度からのキャップ回収は約5ヶ月で8000個を超えた。
② 施設設備の管理	活用と安全管理	施設・設備の有効な活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う	施設設備の安全点検や補修を学期に1回以上行い、環境整備を図る	4	4	4	衛生委員会を中心に、定期的に施設・設備の安全点検、整備を行った。
③ 情報インフラの設備・充実	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う	パソコンによる校務処理を積極的に推進するとともに、データの共有化を図る	2	3	2.6	ホームページの更新は定期的に更新しているが、さらに積極的な発信に努めていきたい。
	ホームページの更新	ホームページを見やすくし、定期的に更新する	ホームページの定期的更新を行い、学校情報の積極的発信に努める	2	3.5		
5 開かれた学校づくり							
① 保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	学年育友会を年1回以上開き、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う	3.5	3.5	3.5	育友会総会は、保護者の興味を引く講話を実施し、参加者を増やす事が出来た。学年育友会も、充実した内容で実施できた。
	育友会活動の充実	支援と活性化を積極的に図る。	自主的な育友会活動が活発に展開されるよう積極的に支援する	3.5	3.5		
② 地域や関係機関との連携	協力体制の確立	学校方針や具体的教育活動についての情報を提供する	学校方針や具体的な教育活動の自身について適切な情報を地域や関係機関に提供するため、学校新聞・学校通信を年2回以上発行する	3	3	3.5	1年生の総合学習ペーロン体験は、荒天のため実施出来なかった。体育祭では近隣の自治会の方々にも参観していただいた。また、JA東長崎の餅つきや、日見地区ロードレースへの参加、運営手伝い等行うことにより、地域との交流を深めることができた。またホームページ等で学校の活動を情報発信している。
	学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う	生徒募集と別に、情報交換のための近隣中学校訪問を学年・生徒指導等で実施する。	3.5	3.5		
	地域の少年スポーツ活動への貢献	部活動を通し、地域の子供達に対し、スポーツの促進を図る	近隣地域の小中学校を対象に、本校部顧問が指導し、地域の子供達の健全育成を図る	3.5	3.5		
	外部講師の招へい	教育目標に沿って、外部講師招へいによる教育活動を行う	年間計画に基づき、平和教育・進路講話・交通講話等に外部講師を積極的に活用し、教育的効果を高める	4	4		